

第 1 回 淀江 I C 周辺地活用検討委員会 議事概要

1. 日時：令和 4 年 12 月 19 日 14:00～16:00
2. 場所：大山町役場大山支所 会議室 1
3. 出席委員：14 人（欠席 3 人）
4. 議事概要（下表に示す）

	（開会挨拶、委員紹介、委員会要綱の承認、会長選出、資料の説明について省略）
会長	対象敷地には米子市も含まれているため大山町に限らず、大山町の西側エリアといった観点で、出席委員より淀江 I C 周辺の活用方法について意見を伺います。」
委員	どの立場でアイデアを出せばよいのか分からない。行政の運営施設か民間の商業施設なのか、何を目的としているのか、もう少し絞り込んで議論した方がよい。
委員	最初は商業施設として活用ができそうだと考えたが、大山町は観光の施設として利用したがつているように思える。そうであれば、観光拠点、商業施設など提示した上で話をした方がよい。公共的な施設ならば費用がなるべくかからない運動公園的なものがよい。
委員	道の駅や農産物直売所など、観光の振興に資する施設としては色々考えられるが、鳥取から来た方が松江に行ってしまうような、通過施設にはなってほしくない。ここを拠点にして、大山寺や淀江の観光をしてもらえるような施設を考えていけたらよい。
委員	まず、道の駅が真っ先に思い浮かんだ。特に淀江 I C 周辺にトイレができたら場所としては抜群に良い。ただトイレだけで終わってしまわないようにしたい。大山町の農産物のアピールができる場所がよい。
委員	大山町の課題は空き家、若者定住。チャレンジショップを作り起業するための修業の場にするのはどうか。そこに充電スタンドを設置することで空き時間にチャレンジショップに行ってもらえることもできる。水素ステーションなら他との差別化も図れるのでは。
委員	この場所がどれくらいの方にニーズがあるのか不鮮明。周辺に結びつく施設が少ない、利用客が分散する等、観光で考えるのは難しい。鉄道・風景を楽しめるスポットや充電スタンド等生活必需品とセットにするのであれば可能性が見えてくる。
委員	経済効果を生む活用が望ましいが、どういう施設にするのか整理がついていない。チャレンジショップというアイデアは面白い。山と海を繋ぐ役割になればいいと思うし、新興住宅等で人に住んでもらう拠点にするのも面白い。

委員	大山町の仕事場だったり観光だったり色んな産物をPRできる施設がよい。そこに留まるだけではなく町内や海、新しい店に足を運んでもらえる情報発信の場がよい。
委員	コロナの影響で今後は地方の観光地がインバウンドの拠点になると思う。鳥取県ではNCR（ナショナルサイクルルート）の認定を目指して取り組んでいるため、サイクリングを基軸とした拠点となれば県の政策と合致して心強い。具体的には道の駅で滞在型観光のベースとなる拠点があればよい。
委員	敷地は県所有だが、そこに囚われずに幅広に考えてほしい。大山町には既に道の駅があるため、同じものを作っても意味がない。アウトドアやサイクリングの拠点、近年取り組みが進んでいる防災道の駅など、何か独自性のある道の駅ならよいと思う。
事務局	行政か民間かについては未確定。今回は多様な意見を伺って次に進めたい。
会長	まず考えたのが道の駅。既存の「恵みの里」は規模が小さく、もっと大きなスペースがあれば面白いと思った。米子市周辺に道の駅がないため、対象地に大規模な施設があってもよいと思う。サイクリングの拠点、民間の商業施設が出てくるのも大いに有りだと思う。色んなことを言っててんこ盛りのアイデアになることを望む。
事務局	この会議で提案された活用計画を町長や県知事に提言をする予定である。事業の実現性については次の段階で考えるため、この委員会に関しては夢物語でも構わないので色々な意見を頂きたい。面白いアイデアがあれば出していただいて、可能なものは提言に加えたい。
委員	ある程度集客力のある施設を作ると、自ずと観光にも繋がると思う。ここでしか体験できないコンセプト（とがったコンセプト）が、集客力を呼ぶと考える。たとえば、牛の駅はどうか。鳥取和牛を美味しく食べられる肉ゾーンと牛乳を使ったスイーツが食べられる牛乳ゾーンで、空いた土地はバーベキューをする。採算ベースに乗るかどうかも重要である。
委員	新しいスポーツの形がここで提供できればよい。例えばスケボーやマウンテンバイク（MTB）の基地など。電動MTBは近くの間まで行くのにちょうどよい。
委員	自転車活用の要望は多い。目印になるような大きな駐車場や待ち合わせができる拠点として活用できれば、ニーズはあるかもしれない。
会長	商業施設として活用するならば、どのような業種だと魅力的か。
委員	今あるものではなく、ないもの考えた方がよい。周辺は小売店が多いわけではないが、周辺住民相手ではなく観光で考えるならば、とがったものでニーズの高いものに絞

	っていく方がよい。
委員	牛の駅はなかなか良いアイデアだと思った。訪れた人たちが、その後に史跡旧跡や温泉に寄ってもらうことも期待できる。
委員	大山ツーリズムの関連で、淀江海岸は初心者用のカヌーに向いていると思う。山の上から自転車に乗ってこの場所まで下りて、カヌーやシーカヤックをして帰るということもできるのではないか。
委員	淀江海岸は波も穏やかだし、漁協の組合もすぐそばにある。用地から海まで車で3分圏内のため、利用できる可能性は高いと思う。
委員	大山の魅力は空が広くて色んな風景をコンパクトに楽しめるところだと思う。パラシュートやパラグライダーなど、その辺りを売りにできるようなアクティビティを、自転車以外に開発していけば、オリジナルなコンテンツになると思う。
委員	NCRの認定に向けて取り組んでいる。ここがサイクリストの拠点になれば、場所的にもちょうど良い。ぜひそういった拠点にしていきたい。
委員	具体的にどういうものがサイクリストの拠点になるのか。
委員	例えば、県外者が車で来て、飲食や宿泊、レンタサイクル、自転車のメンテナンスができる施設。サイクリストの聖地的なもの。
委員	具体例で言うと、岡山の蒜山に昨年道の駅が開設されて、サイクリングやスノーボードなどアクティビティの拠点となっている。そこはスポーツロッカーが配備されておりマウンテンバイクやスキー・スノーボードを収納でき、そこを拠点にして色んなところを周遊することを想定している施設であり、参考になるかもしれない。
事務局	今回のディスカッションの結果を踏まえ、次回会議に資料として提示させていただきます。 (次回のスケジュール、閉会の挨拶について省略) －閉会－